

▼メダルの重みに驚く北林理事長



よりも限界値を探ることが僕の求めることでしたので、一緒に追究してくれてありがたいです。

一壊れる部分とか力のかかり方とか、そういうことをずっと打ち合わせしてきたわけですか。

思ってもないところが壊れたり、実地でしかわからないことはありますから、何度も打ち合わせました。実際に加工をする方と直接話をして、お互いに納得して「試合の時に壊れず最高のパフォーマンスが出せるもの」を作れたら、と思ってやってきました。

一走り幅跳びで最初は健常な足から踏み切っていたのを義足から踏み切るように変えたということですが、最初は怖かったのではないですか？

最初はたまたま「義足で踏み切らないとファウルになってしまう」という状況だったのでそうせざるを得なかったのですが、結果凄く良い記録が出て(笑)。当時の大学の先生から解説されて納得してからは、義足で踏み切るようにしました。砂場に投げ出されることは何度もありましたが、それで恐怖心が残ったということとはなかったです。

一バイクの事故で足を失ったときはどのようなお気持ちでしたか？

1日だけ「なんでこんな風になってしまったんだ」と考えて泣いた日がありましたが、それですっきりして「これから何をしたいか」ということに目が向きました。好きだったスノーボードが義足でも出来るかな、と考えていたときにたまたま見た雑誌の特集に義足のスノーボーダーが載っていて、「こんな人がいるなら義足でもできるな」と思ってリハビリして、3月に事故に遭ってその年の12月には滑りに行っていました(笑)。やりたいと思ってることに向かって突き進んでいるときのパワーを感じましたね。

一目標があると違いますよね。私は上尾市身体障害者福祉会賛助会会長をしていて、参加されている若い方にスポーツを調べて紹介したいなと考えています。

障害者スポーツは色々あるので、そういうものに取り組むのは良いですね。スポーツは「できなかったことができた」という成功体験がはっきり見えるので、達成感をわかりやすく得られるのがいいところだと思います。



PROFILE



1982年4月19日生まれ、静岡県掛川市出身。2017年10月よりプロアスリートとして新日本住設株式会社に所属。

高校2年の春休みに起こしたバイク事故により、左足の大腿部を切断。高校卒業後に進学した義肢装具士になるための専門学校で競技用義足に出会い、陸上を始める。本格的に競技をしようと、2004年に大阪体育大学体育学部に入學し、陸上部に所属した。2008年スズキ株式会社に入社。同年の北京パラリンピックで走り幅跳びで銀メダルを獲得し、2012年ロンドンパラリンピック、2016年リオパラリンピックにも出場。2018年には平昌パラリンピックにスノーボード競技で出場を果たした。

山本篤オフィシャルウェブサイト
<http://bladeathlete.com/>

